

【第2次札幌新まちづくり計画 平成20年度進行管理評価結果】

『政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街』

重点課題3 将来を見据えた魅力ある都市の整備

< 施策の基本方針 >

都市の持続的な発展を目指し、市民・企業・行政が一体となって、都心の魅力と活力を高めるために実効性のあるまちづくりを進めるとともに、市民の日常生活を支える地域の拠点の再整備し、道都にふさわしい風格のある街並みとにぎわいを創出します。また、公共交通機関を軸とした交通体系の確立を図り、人と環境を重視した快適で美しい街の実現を図ります。

事業費の進捗率

(H19決算額 + H20予算額) 24,706,078千円 / (計画事業費) 44,580,000千円 : 55.4%

施策別の主な取組内容

19年度(実績)

【施策1】都心のまちづくり

- ・都心まちづくり戦略の策定に向けた検討。
- ・創世1.1.1区再開発基本計画の策定。
- ・市民交流複合施設基本計画策定に向けた検討等。
- ・北海道新幹線の札幌延伸の実現に向けた市民への情報発信、中央要望等。
- ・札幌駅交流拠点再整備構想の策定に向けた検討。
- ・札幌駅前通公共地下歩道の空間活用基本計画の策定。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

- ・苗穂駅周辺まちづくり計画に基づく調整。
- ・JR篠路駅西第2地区の再開発への支援。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

- ・路面電車活用の事業化判断に向けた調査・検討。
- ・地下鉄ICカード関連機器等の開発。

20年度(予定)

【施策1】都心のまちづくり

- ・都心まちづくり戦略の策定に向けた検討。
- ・創世1.1.1区北1西1街区再開発推進計画の策定。
- ・市民交流複合施設基本計画、市民交流複合施設実施方針策定。
- ・北海道新幹線の札幌延伸の実現に向けた市民への情報発信、中央要望等。
- ・札幌駅交流拠点再整備構想の策定に向けた検討。
- ・札幌駅前通公共地下歩道の活用に係る関連条例及び施設運営・空間活用ルールの詳細検討等。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

- ・苗穂駅周辺まちづくり計画に基づく調整。
- ・JR篠路駅西第2地区、琴似4・2地区の再開発への支援。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

- ・路面電車活用の事業化判断に向けた調査・検討。
- ・地下鉄ICカード関連機器等の開発、ICカード「SAPICA」運用開始。

市民・企業等との協働の状況

市民との連携、市民参加

- ・(仮称)市民交流複合施設整備事業：公開ヒアリング、円卓会議等を通じ、市民や市内の文化芸術活動を行う団体の意見把握を実施。
- ・乗継施設等整備推進事業：「栄町駅周辺交通環境整備計画」策定にあたり、地元住民との勉強会やワークショップを実施。

企業等との連携・協働

- ・都心再生協働事業：まちづくり活動への協賛(広告提出等)を行いやすい環境を整えることで、財源確保の一助となった。また、各地区のまちづくり協議会等に参加し、地元事業者と共に議論を行うほか、まちづくり活動への支援を行い、協働によるまちづくりを実践した。

市民・企業等が参加しやすい環境づくり

- ・路面電車活用方針検討調査：沿線の活性化に向けた連携事業の実施にあたって、民間企業等と協議会を設置しており、様々な主体が参加できるようにしている。

評価(成果)と課題

【施策1】都心のまちづくり

「都心まちづくり戦略」の策定に向け、経済界や関係機関との連携を進め、まちづくりの方向性や施策展開について協議した。また、創世1.1.1区や市民交流複合施設の整備の検討や、駅前通公共地下歩行空間等の工事を進めるとともに、完成後の活用スキームについての検討を進めた。さらに、各地域のエリアマネジメントへの支援を進めるなど、市民・企業との協働によるまちづくりを進めている。

風格と魅力ある都心を実現するためには、官民が効率的に連携した取り組みが必要である。また、民間の主体的かつ自発的な「実働組織」が必要であり、その設立に向けて地元事業者や商業者の意欲を高めていくことが課題である。

【施策2】快適で魅力的な地域への再構築

「JR篠路駅西第2地区」再開発事業や「苗穂駅周辺まちづくり」への支援・調整など、市民との協働により拠点の再整備に向けた取り組みを進めるとともに、開発時期の古い郊外住宅地の土地利用ルールのあり方や土地の利用転換を検討するなど、その他の地域においても、地域の課題や特性に応じた都市づくりを進めている。

各まちづくり計画の策定、事業の実施にあたり、引き続き地域住民や関係機関との調整を図っていく必要がある。

【施策3】公共交通機関の利便性向上

JR駅のバリアフリー化の推進や、ICカードの導入に向けた取り組みなど、公共交通機関の利便性向上を図る取り組みを進めている。公共交通の利便性向上を図り、利用促進につなげていくため、今後もバリアフリー化や乗継環境の向上などの取り組みを進めるとともに、これまで以上に公共交通事業者相互の連携や市民との協働の取り組みが必要となっている。

今後の重点取組

都心では、これまでのまちづくりの取り組みや、札幌駅前通地下歩行空間整備や創成川通アンダーパス連続化事業などの大規模公共施設整備によって、都心における民間の都市開発意欲は高まりを見せつつある。これらの社会経済動向を踏まえ、札幌市が考えるまちづくりの方向性を「都心まちづくり戦略」として明示し、市民・企業・行政で議論・意見交換を行うことにより、共通の認識を持ち、都心のまちづくりに取り組んでいくことで、将来を見据えた一体的・効率的なまちづくりが推進される。

地域では、各まちづくり計画等に基づく都市づくりに取り組んでいくことにより、市民の日常生活を支える機能を集積し、誰もが安心し、快適に過ごせ、活力に満ちた拠点の育成・整備が図られるとともに、より実効性の高い景観施策により、地域特性を生かした個性豊かで魅力的な景観形成が推進される。また、公共交通環境については、これまで以上に公共交通事業者相互の連携や市民との協働に取り組んでいくことにより、一層快適で利用しやすい環境が創出される。

主な達成目標の状況

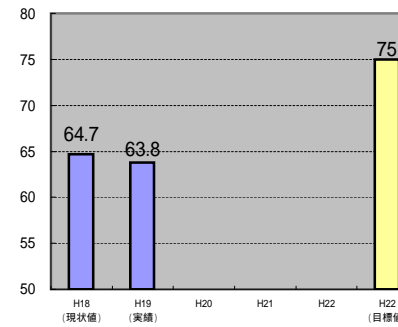
| 達成目標名 | 目標値(目標年度) | H18(現状) | H19(実績) |
|--|------------|---------|---------|
| 都心まちづくり戦略の策定 | 策定(H19) | 検討 | 検討 |
| 都心まちづくり会議の設置 | 設置(H19) | 検討 | 設置 |
| 創世1.1.1区街づくり指針の策定 | 策定(H19) | 検討 | 検討 |
| 北1西1・大通東1再開発基本計画の策定 | 策定(H19) | 検討 | 策定 |
| 〔(仮称)市民交流複合施設整備〕施設基本計画の策定 | 策定(H20) | 検討 | 検討 |
| (北海道新幹線推進)札幌延伸の早期事業化の推進 | 推進(H22) | - | 推進 |
| 札幌駅交流拠点再整備構想の策定 | 策定(H22) | - | 検討 |
| サッポロ広場形成計画の策定 | 策定(H22) | 検討 | 検討 |
| 新中心市街地活性化基本計画の策定 | 策定(H20) | 検討 | 検討 |
| 創世1.1.1区・札幌駅前周辺地区交通環境改善計画の策定 | 事業化調整(H22) | - | 検討 |
| 地下歩行空間(地下歩道)の整備 | 供用開始(H22) | 工事中 | 工事中 |
| (創成川通)アンダーパス連続化 | 供用開始(H20) | 工事中 | 工事中 |
| 創成川通道路部分整備 | 完成(H22) | 工事中 | 工事中 |
| 「まち本」等活用講座受講者数 | 500人(H22) | 127人 | 500人 |
| 都市景観重要建築物等の指定件数(累計) | 30件(H22) | 18件 | 23件 |
| 栄町駅周辺交通環境整備計画の策定 | 策定(H19) | 検討 | 策定 |
| JR篠路駅西第2地区再開発事業 | 完了(H21) | - | 事業着手 |
| (「ひかりの」元気の杜推進)土地活用率(地区内において宅地建設など土地の利用が図られた割合) | 30%(H22) | 19% | 22% |
| (図書館サービス網の拡充)ネットワークへの組み入れ箇所数 | 40カ所(H19) | 38カ所 | 39カ所 |
| ノンステップバスの導入台数(累計) | 75台(H22) | 51台 | 57台 |

主な施設・サービスの整備水準

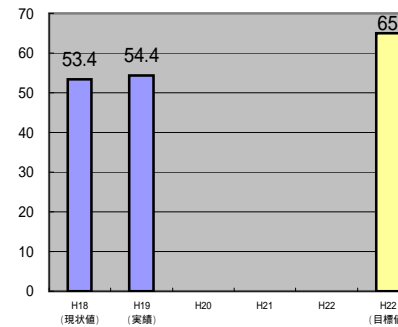
該当なし

成果指標等の動向

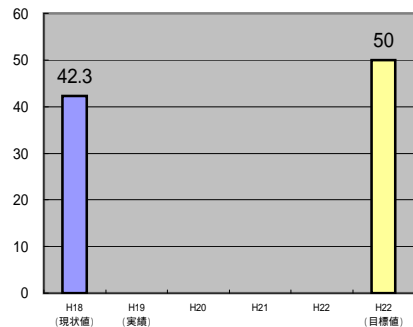
札幌の都心に「にぎわい」があると感じる人の割合(単位:%)



住んでいる地域の住環境(街並み)に満足している人の割合(単位:%)



公共交通に対する満足度(単位:%)



公共交通の利用者数(単位:万人)

